

市之枝地域づくりネットワーク協議会（羽島市）

農山村

田園環境・農業振興

取組の背景

羽島市南部の中央に位置する市之枝地区では、平成9年度から県営ほ場整備事業を施工してきたが、その過程で整備された施設の維持や、地域の田園環境の保全について関心が高まり、平成14年度に、農地整備環境機能増進事業（国補）に採択されたことを契機として、地域住民と農家と一緒に、農地や環境の保全増進活動を行う組織として、「市之枝地域づくりネットワーク協議会」を設立した。

○経過

- 平成9年度～
県営ほ場整備事業（羽島中部地区）施工開始（農村環境に対する住民意識の高まり）
- 平成13年2月
市之枝営農組合発足。地権者156戸で構成。オペレーター7人が36ヘクタールの全作業を受託。米（ハツシモ、農薬、化学肥料を減らした特別栽培米として栽培）は18ヘクタールで栽培。残りは転作作物等。
- 平成14年11月
農地整備環境機能増進事業（補助事業）の採択を契機として、「市之枝地域づくりネットワーク協議会」を設立。
- 平成18年4月～
農地・水・環境保全モデル地区に選定。

取組団体の概要

市之枝地域づくりネットワーク協議会は、自治会、営農組合、小学校、子供会、老人クラブ、JA、自治体等の様々な団体で構成されており、それぞれの団体から1名以上が協議会の役員と

して選任されている。

それぞれの団体が連携しながら、ほ場整備事業によって整備された農地の有効利用と、地域の一層の活性化をはかるための数々のイベントや水路の清掃作業、野外観察会などを実施している。（ボランティアで運営）

なお、協議会は国等の補助金および自治会等からの助成金により運営されている。



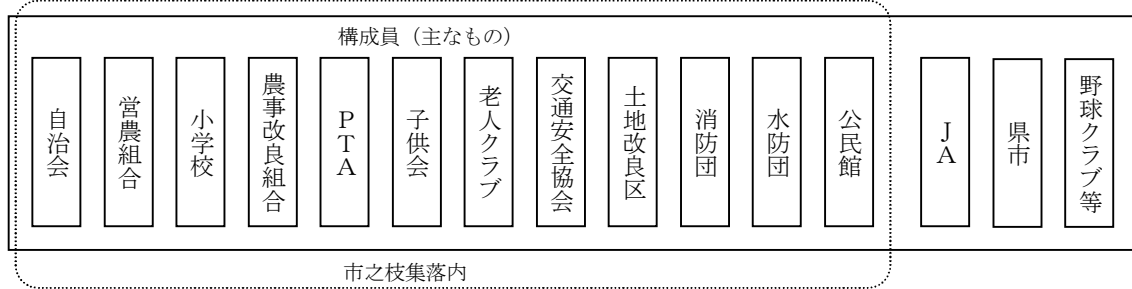
クリーン作戦

取組の内容

○主な活動内容

- 環境機能維持・増進活動計画の作成
- 地域住民等の参加促進のための啓蒙活動
- 地域住民と農家が一体的となった活動組織の設立及び運営（野外観察会、シンポジウムなどイベントの企画・開催）
- 地域住民等の参加による実践的な地域活動
- 生態系に係るモニタリング調査
- 都市住民と地域住民が一体となった取組
 - ①年3回のイベント（れんげ祭り、コスモス祭り ひまわり祭り 約1万人参加）
→口コミで広まるとともに、新聞の地域版やテレビで取り上げられたりして参加者が増加。
 - ②小学生の稲作体験支援

市之枝地域づくりネットワーク協議会の構成



- ③羽島田園街道路肩へのコスモス栽培
- ④牛糞堆肥を利用したカブトムシの幼虫繁殖 など



ひまわり祭り

- 国等の支援（補助金）がなくなったときの事業継続の仕組みづくり。
- 単なる参加者ではない、事務的なことを行うスタッフが不足している。
→団塊の世代に期待。また事務的なことに長けた公務員のOBにも期待。

行政への期待

- イベント等のPR
- 各種情報提供（新たな制度、補助金）

この人にお話をうかがいました！

市之枝地域づくりネットワーク協議会
会長 渡辺信夫さん（市之枝営農組合長）

調査日：平成18年11月14日（火）

調査者：総合政策課 佐藤、岐阜振興局 上出、永田

成果

- 地域住民と農家の交流、世代を超えた交流、地域の連帯感
地域住民、参加者から感謝の声を多く聞かれる。
- 地域と都市住民との交流
イベント時には、名古屋からバスで参加者が来場するなど、毎年多くの人を訪れてにぎわい、市の観光資源の一つに成長。
- 平成16年農業農村整備優良地区コンクール「全国水土里ネット会長賞」受賞
他県からの視察も多い。

成果の要因

- 農業者のみではなく、地域が一体となった取組であること。
特に自治会と一緒にやっていることが、活動にまとまりができ、情報の周知徹底の面においても大きな要素となっている。
- 取組時期が、丁度国の政策の転換期と重なり、新たな政策に上手く乗ることができたこと。
（新たな取組のモデル地域として、行政も積極的にPRしてくれる）

今後の課題

- さらなる地域の活動への巻き込み。
→最近では何か行事があると、中学生も参加するようになってきている。